

# Principal Correspondence

## 子ども達の集団遊び

幼児はひとつの部屋に集めるとすぐ仲良くなって遊び始めるものです

警戒感なく、すぐ無邪気に遊ぶのですが、ひとつの部屋に子どもの数を多く集めると、次のルールに則って自然とグループに分かれていくと言います(言ってはいけない 新潮新書 橘玲著)。

- ①年齢・幼児は自分より少し上の子どもになつき、年の離れた子どもには近付きません。年長の子も少し下の子は仲間に加えますが、それより下の子は無視します(自発的な遊びの場合)。遊び方が異なるし、小さい子のレベルは面白くないからです。
- ②性別・小学校高学年～思春期前になると男女グループに分かれるようになります。お互いに興味を持ちません。性別で興味が異なるし同じ遊びをしてもつまらないのです。
- ③人種・多民族国家の米国等では人数が増えると人種別にグループができるようです。子どもが自分に似た子ども(感じ方や文化を共有できる仲間)に引き寄せられるからです。

人の脳は数百万年前の石器時代から大きく変わっていない



現代人は、原始時代の脳でアスファルトジャングルを生きていると言われています。正常に脳が発達するためには進化適応環境(EEA・Environment of Evolutionary Adaptedness・子どもの脳が発達する為に、あらかじめ予期されている環境)に子どもを置いてやる必要があります。石器時代より「ヒト」の子どもたちは、大人が狩や木の実の採取に行っている間、集落で男女別れて年齢の近いグループを作り、年長の子が年少の子を

面倒みて親の方代わりをする事が期待されてきました。ここでコミュニケーション能力が獲得されました。

強力な牙や角の無い「ヒト(ホモ・サピエンス)」は、互いにコミュニケーションの連携の下にチームワークで狩をして生き残ってきました。群れから排除されたら生きていく術がありません。「友達の世界」のルールを優先することは子どもの能力獲得の本性なのです

最近、生活環境の変化で顕著なのは

思春期を迎える頃までに、「子どもの世界」を充分経験させないと人間力が獲得できないのですが、現代社会では、家でも学校でも異年齢の子どもと混じって遊ぶ環境が乏しく、塾、習い事等、知的発達の偏重などで、前述の環境に子どもを置くことが難しくなっています。脳の十分な発達環境がもてなくなったことにより、特に「コミュニケーション能力」の低さが目立ってきました。この能力も10才頃(臨界期)までの獲得が大切で、その後では遅いと言われています。



リリー文化学園では

幼少は「元気会」(4～8歳位の子どものふれあい)で、小学生はハウス活動を通じて、放課後は5箇所の学童保育を通じて、面倒をみたり、みてもらったりする経験と、異年齢が協力し合う環境を創りだしています。

子どものコミュニケーションの能力やキャラクターは遺伝的な要素を土台として  
友達関係の中で作られていくのです。

# Principal Correspondence

## 今後の子育てで頭に入れておきたいこと

### 青少年で深刻な心理的障害の平均発症年齢は14歳である

というのはご存知ですか？(15歳はなぜ言う事を聞かないのか？ ローレンス・スタインバーグ著 日経BP) 思春期を迎える中学生時代は情緒も不安定で、いじめ、自死、ひきこもり、自傷行為等々の課題は、14歳からが多く、心理的な障害を起こしやすい時期です。



また15歳以下に、ニコチンやアルコールや薬物を摂取させないことは極めて重要で、確実に依存症になってしまいます。この部分の脳の可塑性が高いときに刷り込まれてしまうのです。知っておきましょう。

一方「10歳未満では深刻な心理障害はほとんど発症しない」と言われています。さらに、25歳までに何の心理的障害も発症しなければ、その後発症する可能性は低いというデータもあります。

### 10代は親や家庭より友人仲間が何より大事な時期です

おとなの世界でも、どんな社会でも古今東西、「村八分」は死罪や流刑に次ぐ重罰で恐れられましたが、子どもにとっても同じで「友達の世界」から追放される事を極端に恐れます。心理学者のジュディ・リッチ・ハリスは「親が子どもに影響を与えられるのは友達関係の中で興味の対象外となっているものだけだ」と言っています。



日本のような均質化した学校制度ではあまりわからないのですが、アメリカでは人種の違いによっても生徒たちの成績に大きな違いがあります。白人と黒人の生徒が混在する学校では無意識のうちに人種別グループを作ると言われています(ヒトは自分に似たヒトに引き寄せられると言う特徴・本性をもっているのだからどうしようもないのですが)。黒人の子どもは「勉強するようなやつは仲間じゃない」と言う強い同調圧力をかけられやすく、仲間はずれにされたくなければ意図的に悪い点を取り、ギャングスターの振る舞いを身に付けなければならないと言います(言ってはいけない・橘 玲著・新調新書)。

同様に男女共学校に通う女子生徒は「数学や物理ができる女子は可愛くない」とか、「リーダーになる子は可愛くない」と言うような無言の圧力にさらされていると言います。仲間に入れてもらえないため、好きな数学も止めてしまうわけです。

### 日本でも知的能力を伸ばすなら

女性の政治家や科学者に女子校出身者が多いのは共学と違って学校で「無知で可愛い女子」を演じる必要が無かったからだとも言われます。男女共学校であっても「良い成績をとることがいじめの対象とならない学校(友達集団)」を選ぶべきでしょう。同様に芸術的才能を伸ばしたいなら、風変わりでも物笑いにされたり、仲間はずれにされたりしない環境が必要でしょう。

今後の子育てで頭に入れておきたいことです。

